

# 水環境館いきものトピック Vol.3

## かんさつまど み 観察窓から見られる いきもの

水環境館は紫川の河口域にあります。この観察窓から見られる生き物は、おもに「海に住んでいるもの」「海と川を行ったり来たりするもの」「川に住んでいるもの」の3つに分けられます。しかし、河口域は、潮の満ち引きによって塩分(しょっぱさ)が変わったり、河口域の「汽水(川の水で薄くなった海水)」と呼ばれる水が好きな生き物がいたりします。また、「雨で川から流されてきたけど、しばらくは海でも平気♪」という生き物もいるため、「この生き物は海にしかない!」とか「これは川魚だ!」と言うのは、実はとても難しいことなのです。今回は、観察窓ではめったに見られない、ちょっとレアな生き物を紹介します。

### ギンガメアジ



レア度:★★★★☆☆☆☆☆☆

最大1mくらいになるアジの仲間。普段は暖かい海にいますが、体長20cmくらいまでの幼魚は暖流に乗って紫川の河口域までやってくることがある。観察窓からはおもに夏から秋にかけて見られることがある。別名メッキ。

### ブルーギル



レア度:★★★★☆☆☆☆☆☆

北アメリカから持ち込まれた外来魚。淡水魚だけど、大雨の後に流されてくることがある。塩分が薄い表層にいた。写真の個体のお腹辺りにモヤモヤがあるが、これが淡水と海水の境目が水中に現れる現象「塩水くさび。」

### クロホシマンジュウダイ



レア度:★★★★★★★★★★★★

おもに熱帯地方に生息。日本沿岸では、幼魚がたまに見られるが、写真の個体は20cm以上の成魚だった。しかも観察窓前に現れたのは水温13℃くらいの2月末。今後も観察窓ではめったに見られない魚だと思われる。

### ウシガエル



レア度:★★★★★☆☆☆☆☆

これも北アメリカ産の外来種。雨で流されて来たらしい。下流にもいるけど、観察窓から見られるのは珍しい。この他にもオオクチバス(ブラックバス)やミナミメダカ、モツゴが見られたことがある。これらの生き物は、水流が落ち着くと、また川を遡り、居心地のいい場所へ帰っていく。

※レア度はスタッフの感覚です。生き物は、季節や気象により珍しさが変わったりすることがあります。

